初恋の先生へ

河野久江
千葉県・72歳・主婦

50歳のとき、主人は愛人の許に走り、住む家も売られ、途方にくれて勤めに出ようと決心しました。

初めての勤めで不安いっぱいの私に、先生は、

「君なら大丈夫、できるよ」

と、笑顔でおっしゃって下さいました。

「君ならできる」の一言に支えられ20年余、結婚式場で働き11月で引退することになりました。

夢中で働いた私。明日からは、病気になってもどってきた寝たきりの主人の介護にあけくれることになりました。

先生、私の一生は何だったのでしょうか。このまま老いて死んでゆくことが、くやしい思いでございます。

小学校の5年、6年と教えていただいた先生が今でも好きです。心の支えです。

先生は89歳、主人のことや、奥様のことを考えると言ってはならない言葉と思いましたが、私はこどものときから、ずっと先生が好き、恋いこがれていました。

不幸な結婚生活でしたが、胸の中でいつも先生に話しかけ、励まされていました。

職場でも、

「あなたの笑顔はすばらしい」

と、仲間にもお客様にも言われました。

先生のことを心の中で想いつづけているだけで私は明るく幸せでした。

お逢いすることもできず、手紙も出せず、電話もかけられない今の状態で、四季の移ろい、1年あっという間に過ぎてしまいます。

このまま死んでゆくのは、くやしいと思います。

クラス会などでお逢いしても先生と生徒である限り、私の想いを告白できませんで

した。

ふるさとの海辺の家に先生がお元気で生きていらっしゃること、それだけが今の私の生きる灯です。

一度でいいから、ふるさとの海辺で二人きりでお逢いしたい。

白い砂浜を歩きたい。

そして海に向かってさけびたい。

「私は先生が大好き、死ぬほど好き」